

第24回 びんご多文化共生連続ワークショップ

日時：2024年6月29日(土) 13:30~16:00

場所：福山市立大学1階 小講義室C

定員：70人 (定員を超えた場合は地元優先とさせていただきます。)

参加費：無料 (事前申込が必要です。) 申込締切：6月26日(水)

アフガニスタンに暮らして思うこと ～タリバン政権下のアフガンの女性たち～



講師：^{やすいひろみ}安井浩美さん

〔プロフィール〕

共同通信社カブール支局通信員

京都市出身、1993年よりフリーランスの写真家としてアフガニスタンをはじめとして多くの国で活動。2001年の米国同時多発テロ直後、アフガニスタンに入国し、共同通信社の通信員として取材を開始する。

以降、個人レベルで避難民キャンプに暮らす子供たちのために学校を設立し、子供の教育支援に携わる。現在は、貧困問題を抱える多くのアフガン人家庭を支援する目的で、女性のためのクラフト工房を立ち上げる。著書『私の大好きな国アフガニスタン』あかね書房、2005年。



ユーラシア大陸のほぼ真ん中に位置するアフガニスタンは、長年民族対立と国際対立により争いが絶えない国です。アフガニスタンが世界的に注目を受けたのが、2001年の米国同時多発テロですが、以降は国連と世界各国からの支援により、暫定政府機構が成立し、復興事業が行われました。しかし、2021年8月アフガニスタン政権が崩壊し、イスラム原理主義のタリバンの厳格な宗教的政権により、多くの女性たちが職を追われています。

安井さんは8月アフガニスタン政権崩壊後、自衛隊機で国外退避した唯一の日本人です。以降も安井さんはアフガニスタンに戻り取材をしながら、現地で女性支援活動を継続されています。当時の混乱とその後のアフガニスタンの女子教育と支援についてお話しを聞き、平和とジェンダー平等社会をどう形成していくのか一緒に考えましょう。

- 申込方法：右のQRコードを読み取ると、申込みのページが表示されます。つぎのURLからでも、申込みのページにつながります。

<https://qr.paps.jp/ogdOp>



共 催：福山市立大学教育研究交流センター
びんご多文化共生研究会
びんご日本語多言語サポートセンター「びるど」
後 援：中国新聞備後本社、エフエムふくやま

